２０２５年（令和７年）　７月１７日　木曜日

デーリー東北　２１面　掲載

学校対応「命最優先に」

青森県内 今年初の熱中症警戒アラート

年々、過酷さを増す夏の暑さが日常生活や企業活動だけでなく、学校生活にも影響を及ぼしている。青森県内は16日、今年初の熱中症警戒アラートが発令され、猛暑日に迫る気温になった地域も。各学校はエアコンのない教室での熱中症対策として授業時間を短縮したり、運動着での登校を認めたりと、対応に追われている。（上條哲洋）

エアコンが効いたラウンジで昼食を取る生徒たち。学校側はテーブルといすを増やして生徒が涼みやすくしている＝16日、八戸学院光星高

半袖短パン登校許可、授業短縮も

青森地方気象台によると、この日の県南地方の最高気温は三沢34・7度、八戸33・8度と今年最高を更新した。八戸消防本部管内で搬送された熱中症患者は50～80代の男女計3人。いずれも職場や自宅といった屋内で発症した。搬送時は意識があったという。

猛暑の予報を受け、八戸学院光星高は15～19日、授業時間1コマを50分から40分に短縮し、生徒が普段より1時間ほど早く帰れるようにした。通常教室のエアコン設置が本年度中に完了する予定だが、特に現在は西日が入る夕方、熱中症リスクが高まるためだという。

運動着の半袖短パンでの登校も許可。エアコンが効く2階ラウンジにテーブルといすを追加するなど生徒の負担の軽減を図る。

一連の臨時的な対応について赤間俊勝教頭は「近年の夏は以前よりも非常に暑くなっている。危機管理の一環」と説明。「今後も生徒の安全面を第一に考えていきたい」と力を込める。

16日は同校で普通科スポーツ科学コースの生徒を対象にした熱中症勉強会も開催された。講師は大塚製薬東北支店青森出張所の中島義文さん。夏場の大会を控えた選手らに、活動前に意図的に体温を下げる「プレクーリング」の有効性のほか、湿度への警戒、朝食でしっかり水分を取ることなどを呼びかけた。

サッカー部の3年下田蓮翔さん(18)は「練習で走っていると、頭がくらくらすることがある。活動前に体を冷やしたり、深部体温を下げることを意識したい」と気を引き締めた。

八戸市教委は5月に、市内公立小中学校の校長宛に熱中症事故の防止を呼びかける文書を配布。文科省の熱中症対策ガイドラインやチェックリストも示し、学校に対応を促している。

各校には暑さ指数を目視できる計器があり、屋外やエアコンがない特別教室、体育館での活動は指数をチェックして可否を判断しているという。市教委学校教育課の佐藤公一課長は「暑さ指数に注意を払い、児童生徒の命を最優先に考えて対応したい」と話した。

デーリー東北新聞社提供